

◆◆芝浦港南地区では10年間にこんなまちの変化がありました◆◆

10年前と現在のまちの違い

◆田町駅東口北地区の整備
(ビジョン策定→土地交換→区施設整備)



田町駅東口北地区のみなとパーク芝浦が平成26年12月に開設
(出典:港区ホームページ)

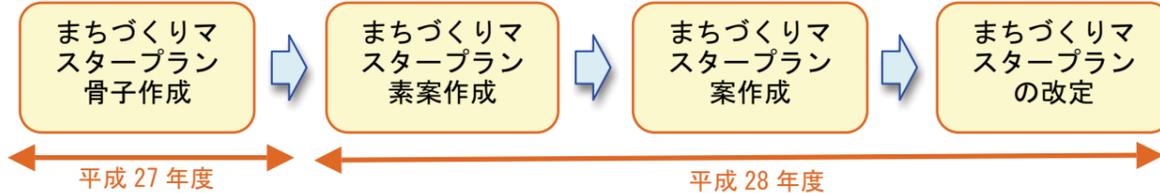
◆芝浦水再生センターの整備
(芝浦中央公園と民間施設の広場を一体的に整備)



芝浦水再生センター内の曝気槽の上部に整備された芝浦中央公園

◆◆まちづくりマスタープランの改定スケジュール◆◆

まちづくりマスタープランは以下のようなスケジュールで改定する予定です。



◆◆次回、第2回意見交換会は以下の日程で開催します◆◆

地区	日時	場所
芝地区	11/5 (木) 18:00~20:00	芝公園区民協働スペース (芝公園保育園内)
麻布地区	11/16 (月) 18:30~20:30	麻布区民協働スペース (麻布保育園内)
赤坂地区	11/9 (月) 18:30~20:30	赤坂区民センター
高輪地区	11/10 (火) 18:30~20:30	高輪区民センター
芝浦港南地区	11/12 (木) 18:30~20:30	芝浦区民協働スペース
台場地区	11/17 (火) 18:30~20:30	台場区民センター

まちづくりマスタープランや意見交換会について感想やご意見などお寄せください！
また、意見交換会への参加者を引き続き募集していますので、ご希望の方はご連絡下さい。
港区 街づくり支援部 都市計画課 街づくり計画担当
TEL 03 (3578) 2235、FAX 03 (3578) 2239
〒105-8511 東京都港区芝公園 1-5-25 (港区役所本庁舎 6 階)

港区まちづくりマスタープラン
意見交換会ニュース

芝浦港南地区
No.1
2015.9.11

芝浦港南地区での第1回意見交換会を開催しました

平成 27 年 9 月 11 日 (金) の 18 時 30 分から芝浦港南区民センターで、港区まちづくりマスタープランについての芝浦港南地区での第1回意見交換会を開催しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

当日は「まちづくりマスタープランの概要 10 年前と現在のまちの違いについて」をスライドで紹介した後、「地区の魅力」や「地区の課題」について意見交換しました。

その結果を模造紙にまとめ、出されたご意見を確認してもらいました。出された意見の詳細は裏面をご覧ください。

話し合いは1時間程度でしたが、机上に地図を広げ、意見やアイデアを出し合って、活気ある話し合いになりました。また、ほぼ時間通りに終了することができ、ご協力ありがとうございました。



まちづくりマスタープランとは

- おおむね 20 年後を目標とするまちの将来像やまちの基本的な方針などを示すものです。
- 区全体のまちの将来像と地区別の特性に応じたまちづくりの方針で構成されています。
- 都市計画や建築、交通などのハード面に限らずバリアフリー、子育て、緑、環境、防災、防犯などのソフト面も含んだ計画です。

意見交換会とは

- 地区ごとに開催し、区民の皆さんからきめ細かな地域の情報や実情などを伺い、その地区の課題や計画内容について話し合う会です。
- 各地区 3 回程度開催する予定で、1 回目は既に開催しました。2 回目は最後のページに紹介しています。3 回目は 12 月中旬～1 月中旬の開催を予定しています。

様々なまちの魅力や課題が出されました

※意見交換会の内容を要約・整理して掲載しています。

芝浦港南地区の特徴について

- ・運河や水辺があることがこの地域の特徴である。もっといかしたまちづくりをするべき。
- ・大都市の再生においては、水辺の活用がキーポイントになる。
- ・水辺の散歩道がない地域など、芝浦アイランドを越えて海岸の方に行くと、「暗い」「怖い」などのイメージがある。

水辺の活用について

【水辺の連続性を活用した回遊性の向上】

- ・運河沿いの散歩道から道路への接続箇所が少ないため、歩行者の通行量が少ない。運河沿いの建物の低層部を通り抜けられるようにするなど工夫できないか。
- ・水辺という立地環境を活かして、人がたくさん歩いているエリアにしたい。
- ・江東区の水辺の遊歩道には、トイレや水飲み場があり、人が歩く環境が整備されている。

【水辺を開放したにぎわい拠点の創出】

- ・みなとパーク芝浦ができ、にぎわいが生まれ、人が溢れている。あのような施設が水辺にもっとできると良い。
- ・CANAL CAFÉ はにぎわっている。
- ・水辺を最大限活かすべきである。
- ・水辺をテラスのように使えると良い。
- ・現状では、運河沿いを歩くだけの空間になってしまっている。何かにぎわいを生む仕組みを。
- ・海外では、水辺に向かってレストランがあったりして、開放されている。
- ・ブルックリンや横浜のように、海沿いの倉庫を活用する。
- ・国交省のミズベリングプロジェクトの事例で、日本橋では、川床をつくり、水辺に開かれたお店などの空間を創出している。(お店側は河川の占用料を支払っている)
- ・高浜運河沿いは、水辺の散歩道が充実していて、歩いている人も多い。つながる天王洲運河のところは、倉庫をリノベーションしたレストランもあり、水辺がとてにぎわっている。そのおかげで、港南のオフィスの人が、東品川の方へランチに行くなどの流れができています。

建物のルールづくりについて

【運河沿いの建物の建て方のルールづくり】

- ・運河に特化した景観形成(緑化、建物高さなど)ができるようなまちづくりの指針をつくってほしい。
- ・今後、建替えを行うときに、水辺に向けて入口を設けるような建て方をすれば、回遊性が向上し、歩行者も増える。
- ・お店等も水辺に向くと良い。
- ・大阪の道頓堀では、ドン・キホーテが川に向かって入口を設け、その後周辺の建物も川に向かって入口を設けた。水辺空間として成功していると思う。
- ・道路に歩道を設けなくても、運河沿いを歩くような仕組みづくりを。
- ・銀座ルールのように、地区のルールをつくれると良い。
- ・様々な規制があると思うが、水辺空間のにぎわいに資する取組を行った物件について、規制緩和できる仕組みをつくってほしい。
- ・容積の緩和など、民地へのボーナスを設け、行政が親水空間の整備を推進していくことが必要である。
- ・ある一定の高さから壁面の位置を後退するような、ルールを設ける。
- ・敷地が狭く、なかなかセットバックは難しい。低層部をピロティにするだけでも、大分変わると思う。
- ・建物の共同化を推進し、大きい敷地で土地を有効活用していく。
- ・建替えの時期を見据えて、新しい取組みができるようにシミュレーションを検討する。

観光について

【観光拠点として盛り上げたい】

- ・レインボーブリッジに外国人観光客が来ている。
- ・レインボーブリッジを歩いて渡れるのは大きな魅力なのに、あまり知られていない。レインボーブリッジの近くにちいばすのバス停をつくる。
- ・土日人が来るエリアにしていきたい。そのためには、イオンの無料バスもあるので、民間と連携しながら水上バスを検討していきたい。(江東区は水上バスを運営している)

健康拠点について

【健康増進を推進する拠点】

- ・地元の人は、朝に運河沿いを散歩などをしている。
- ・運河沿いを歩いたり、走ったりすることは気持ちいい。
- ・健康ブームなので、みなとパーク芝浦を拠点に、健康増進ができるようなスポットにする。
- ・スポーツを通して世代間交流もできる。

様々なまちづくりについて

【新駅を機運としたまちづくり】

- ・新駅ができることにより、ポテンシャルが高いエリアになる。
- ・運河が汚いので、新駅開設を見据えて、今からきれいな環境整備を。
- ・駅だけに人を留まらせず、どれだけ外に人を呼ぶことができるかがカギである。

【居住者に配慮したまちづくり】

- ・昼間人口だけでなく、夜間人口も増えてきた。来街者と居住者のバランスの取れたまちづくりをしてほしい。

